

歴史の道をゆく

秋田藩の羽州街道

③久保田から檜山まで

久保田城下における羽州街道の起点は大町三丁目で、通町から西に折れ矢橋村（八橋）に入った。「八橋」里塚の近くには山王堂の日枝神社が三重の塔を從えて鎮座している。

矢橋から現面影橋で草生津川を渡る。久保田以北の街の様子は、江戸後期、秋田藩士荻津勝孝によつて描かれた「秋田街道風俗絵巻」に詳しい。矢橋村の全良寺山門を過ぎて寺内村に入った旧国道と重なる街道には今も松並木が数本残つて往時の面影をとどめている。

寺内山には秋田城を守護した古四王神社がある。参道入口西側に大小路の古道が残り、沿道には伽羅橋（香炉木橋）や五輪塔、

とどめている。

秋田城址のある寺内山には秋田城を守護した古四王神社がある。参道入口西側に大小路の古道が残り、沿道には伽羅橋（香炉木橋）や五輪塔、



①伽羅橋

秋田市寺内にある伽羅橋

菅江真澄の墓への登口に架かる橋で、かつてこの橋のすぐ下方まで旧雄物川の舟着き場があった

②菅江真澄の墓

文政12年(1829)角館町神明社で亡くなったとされる菅江真澄の遺体を、門人の鎌田正家(まさやか)らが寺内高清水の地に運んで墓を建てた

③「秋田街道風俗絵巻」に描かれた文化期(1804~1818)頃の土崎湊の様子。

当時の土崎湊の繁栄ぶりがよく表現されている。
荻津勝孝作(秋田市立千秋美術館蔵)

④飯田川町の下虻川神明社に残る秋田藩2代目藩主、佐竹義隆の手植えと言われる楓の木

⑤琴丘町山谷の一里塚跡

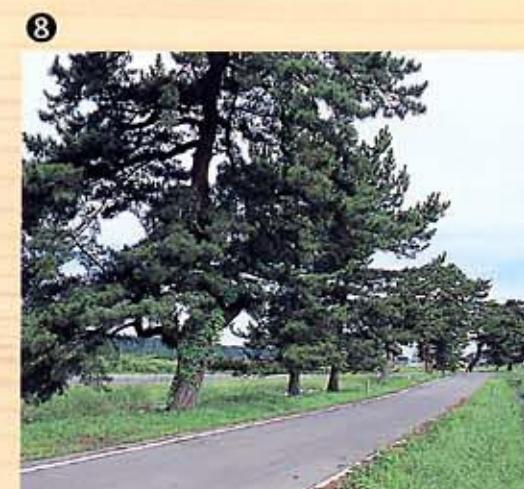
かつてはここに塚があり松の木が植えられていたといわれる
⑥菅江真澄による『かすむつきほし』より森岡の壘桜(複製)(秋田県立博物館蔵)

現在の山本町森岳。壘桜という名前から一里塚に桜の木が植えられた事が考えられる

⑦能代市檜山の多宝院

多賀谷氏の開基で、佐竹氏が秋田移封の際従って仙北郡白岩に移った後慶長15年(1610)に檜山に入る。天和3年(1683)に現在地に移る

⑧檜山追分旧羽州街道松並木
檜山から鶴形への羽州街道沿いに植えられた松並木。秋田藩が天和元年(1681)に街道整備のあと植えたものといわれ推定樹齢200年の黒松が13本残っている



③

菅江真澄の墓などがある。

土崎湊入口の穀保町から御蔵町を旧国道に沿つて進むと町の中心部となり、古くからの商店が立ち並ぶ湊町を通る。藩政期に佐竹氏が秋田に入る以前は、安東氏がこの土崎湊に城を築いていた。藩政期、土崎湊は雄物川を下る年貢米の荷上地となり、藩の御蔵に納められた。

また湊には日本海を通じて、北前船など来航も多く、町は廻船問屋を中心として栄えていた。湊は流通の面から藩の財政をしつかりと支えていたわけである。湊を離れ相染から飯島までは旧国道沿いの道だったが、堀川から追分までは現国道7号の西側を通りていた。

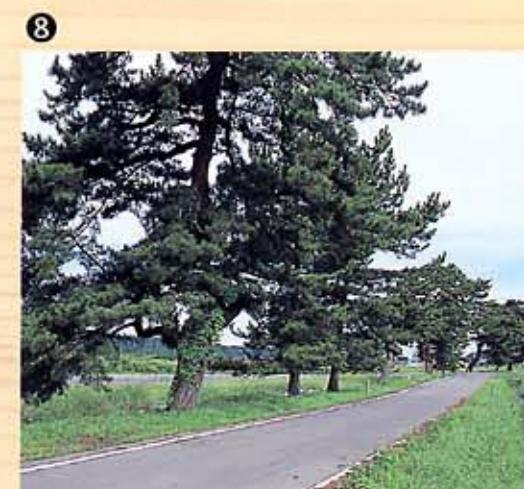
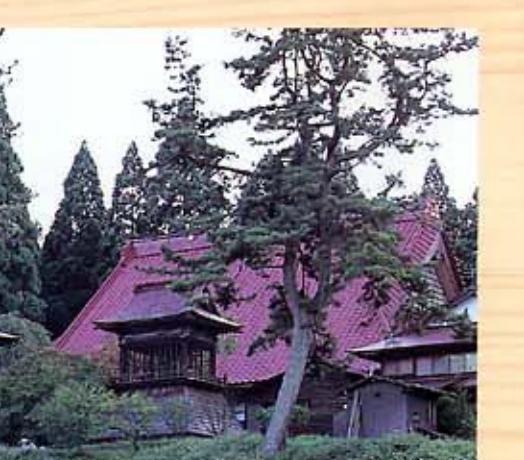
久保田城下における羽州街道の起点は大町三丁目で、通町から西に折れ矢橋村（八橋）に入った。「八橋」里塚の近くには山王堂の日枝神社が三重の塔を從えて鎮座している。矢橋から現面影橋で草生津川を渡る。久保田以北の街の様子は、江戸後期、秋田藩士荻津勝孝によつて描かれた「秋田街道風俗絵巻」に詳しい。矢橋村の全良寺山門を過ぎて寺内村に入った旧国道と重なる街道には今も松並木が数本残つて往時の面影をとどめている。



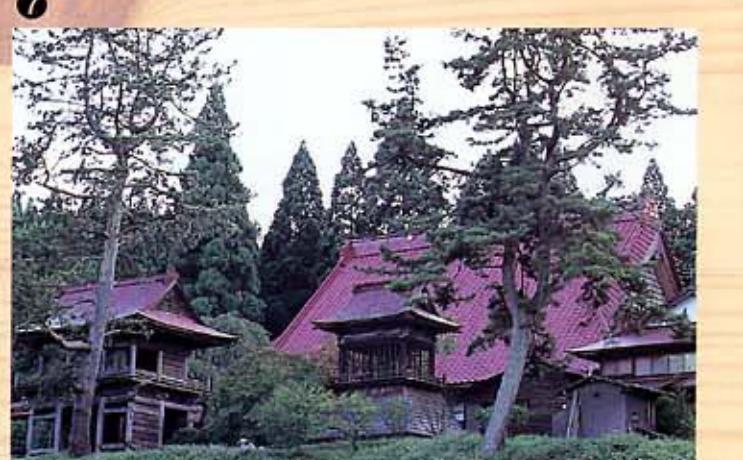
⑥



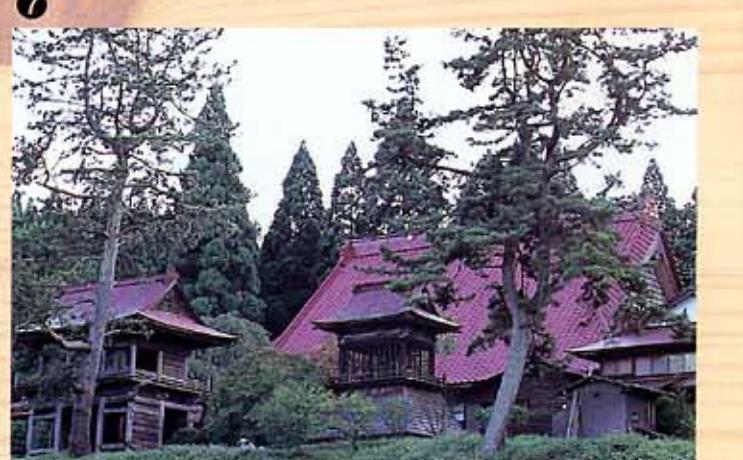
⑦



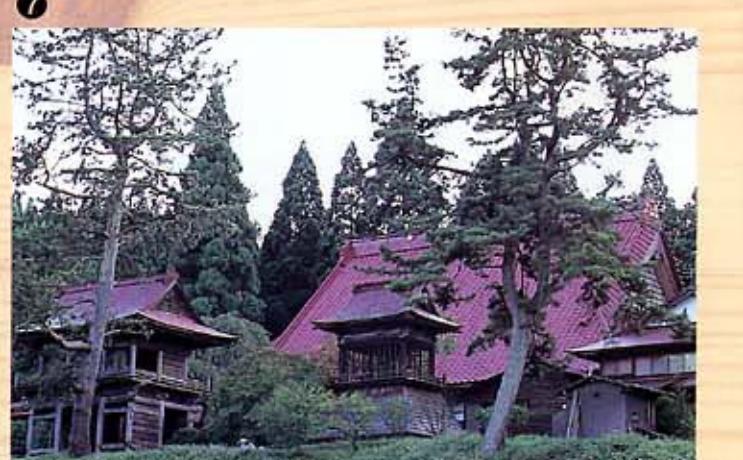
⑧



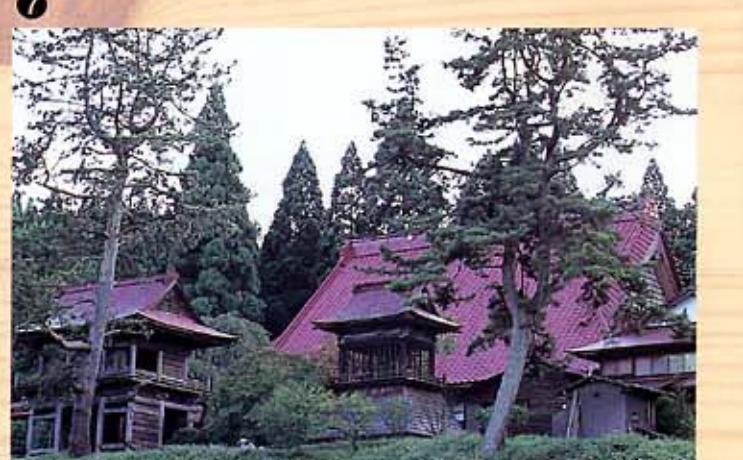
⑨



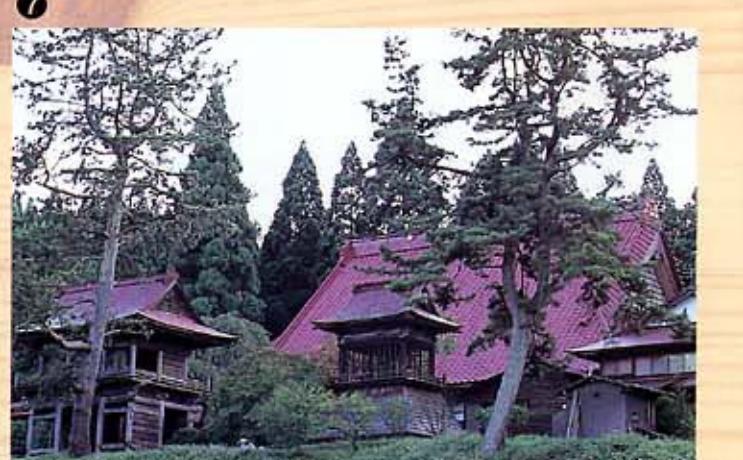
⑩



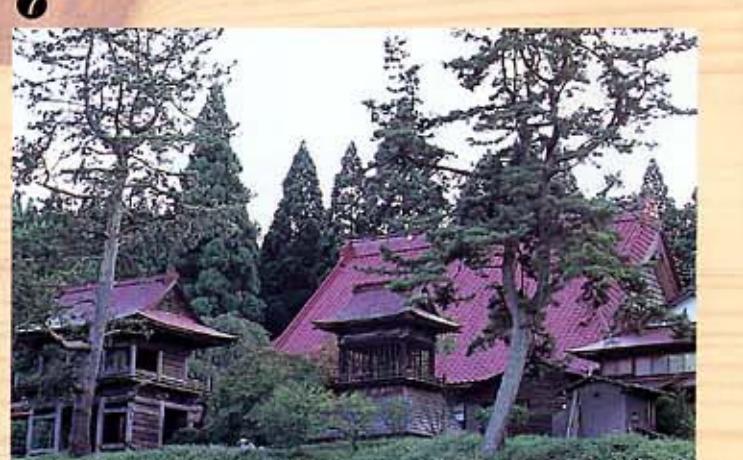
⑪



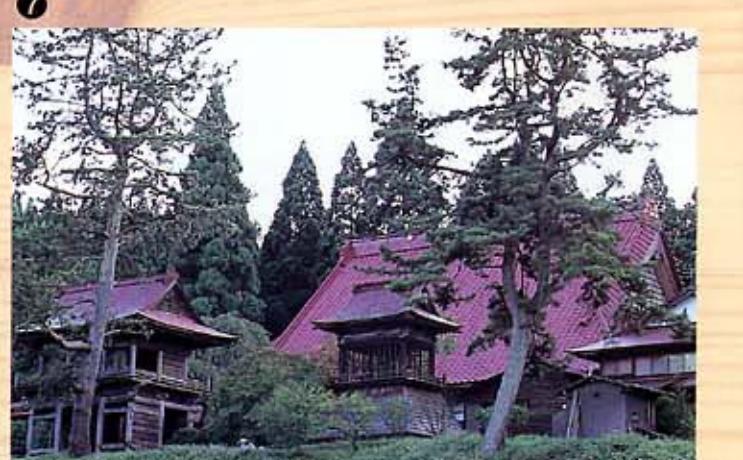
⑫



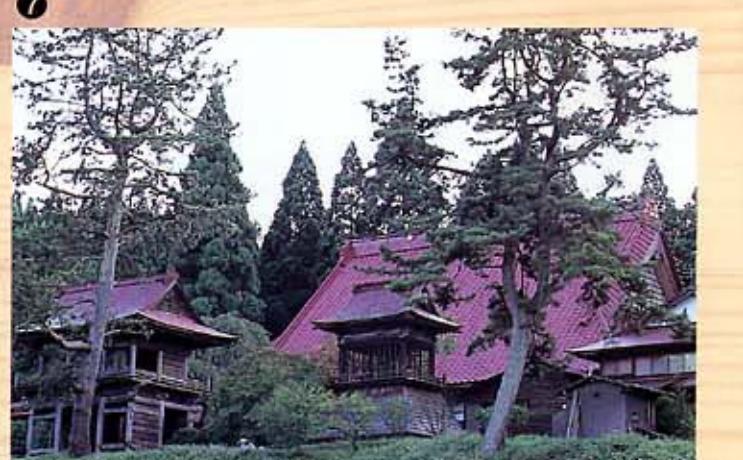
⑬



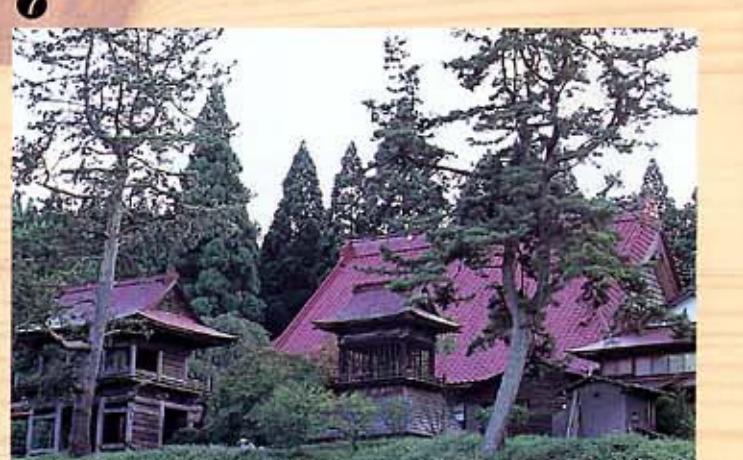
⑭



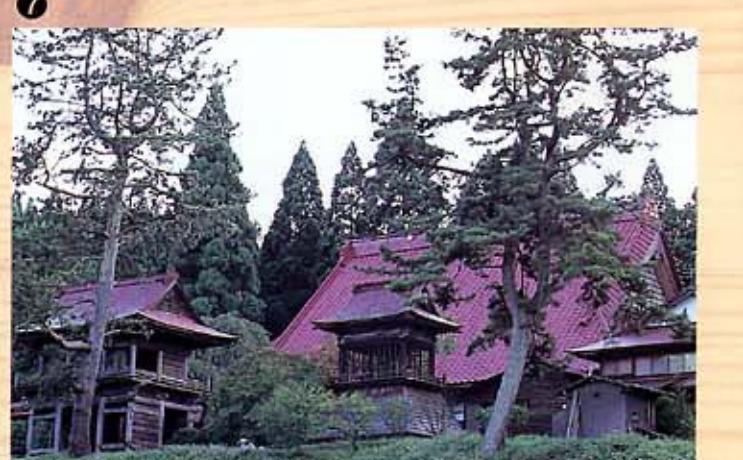
⑮



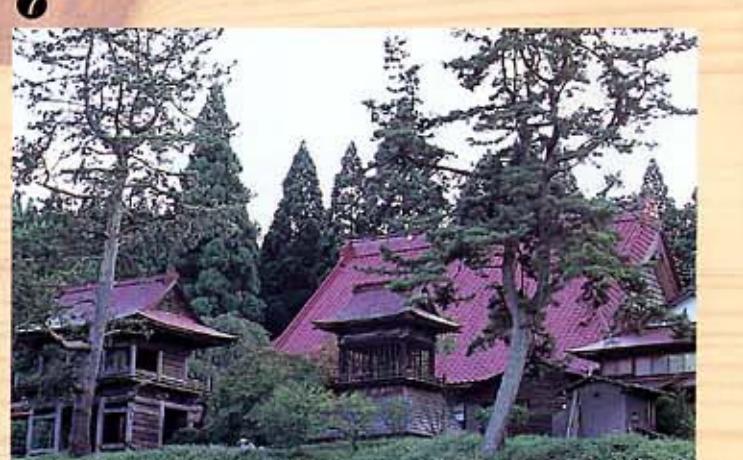
⑯



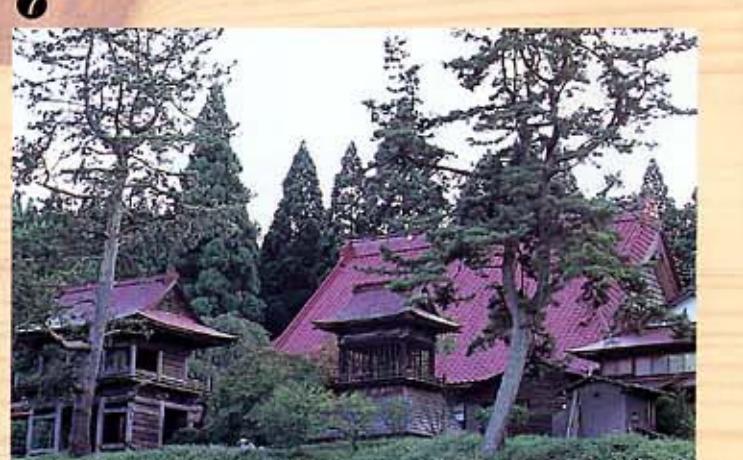
⑰



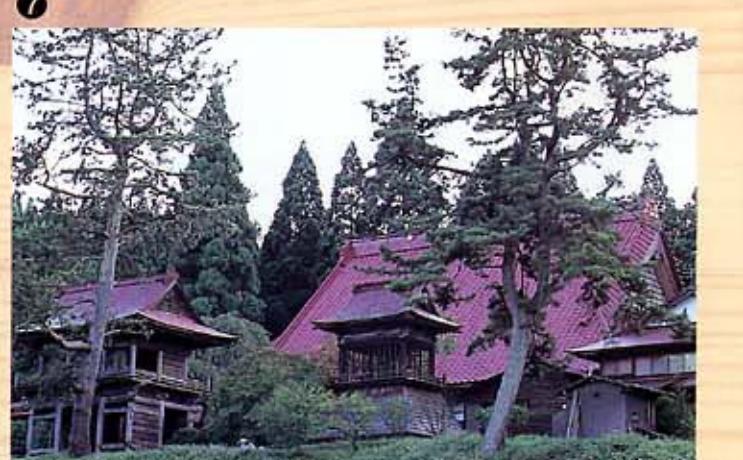
⑱



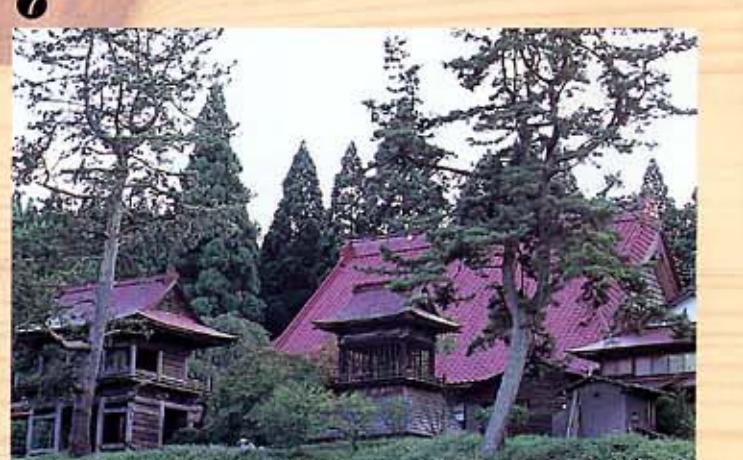
⑲



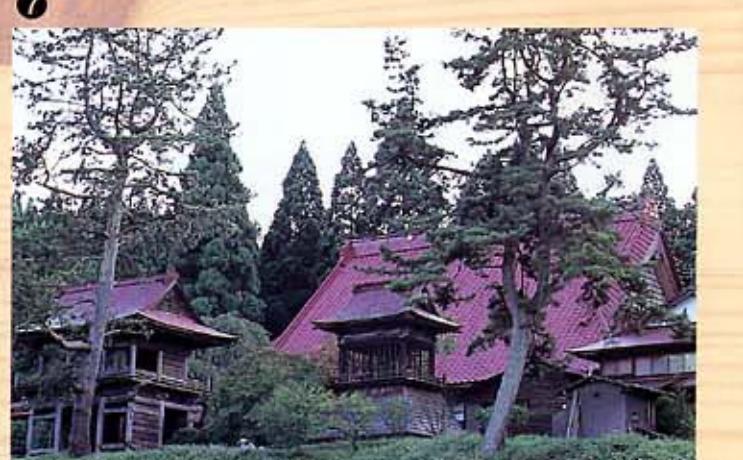
⑳



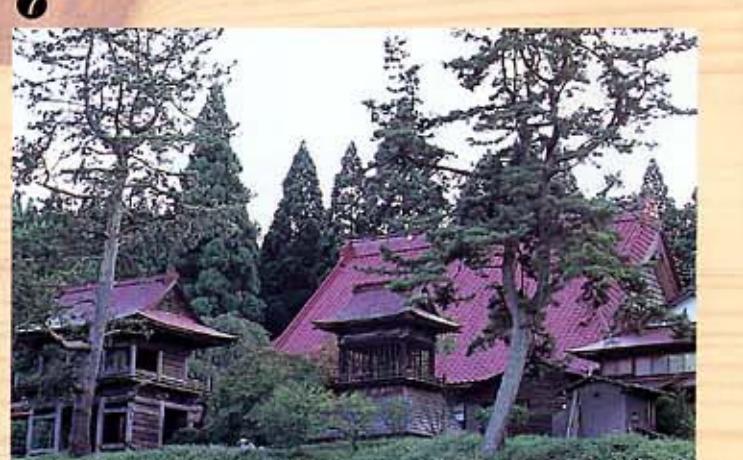
㉑



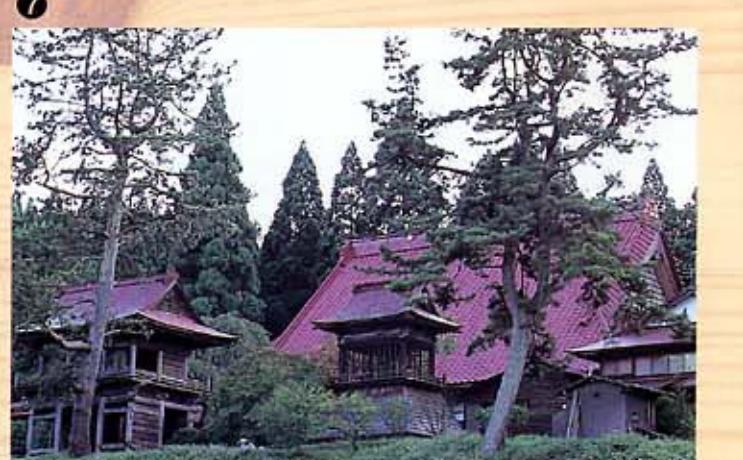
㉒



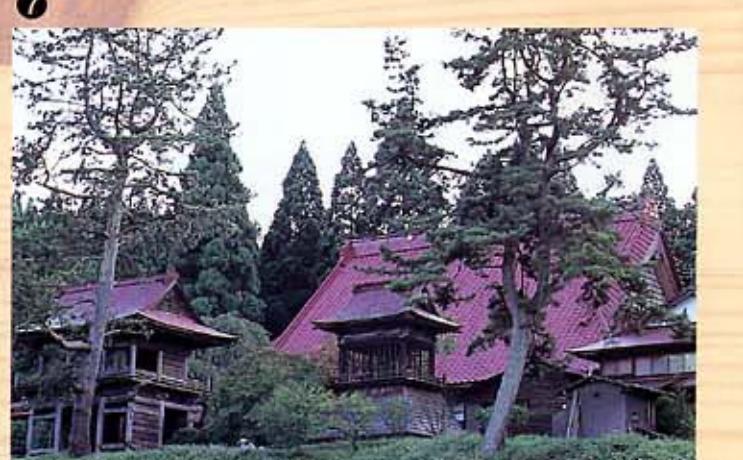
㉓



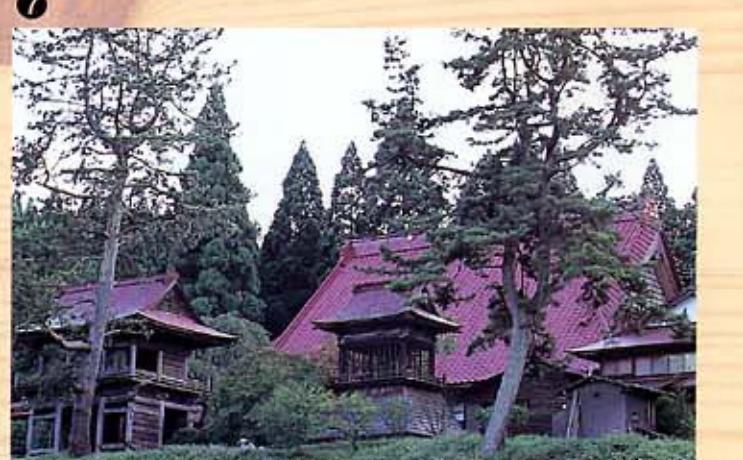
㉔



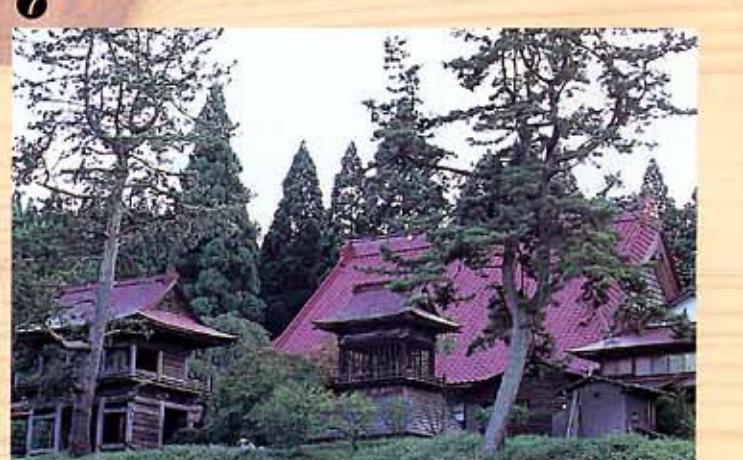
㉕



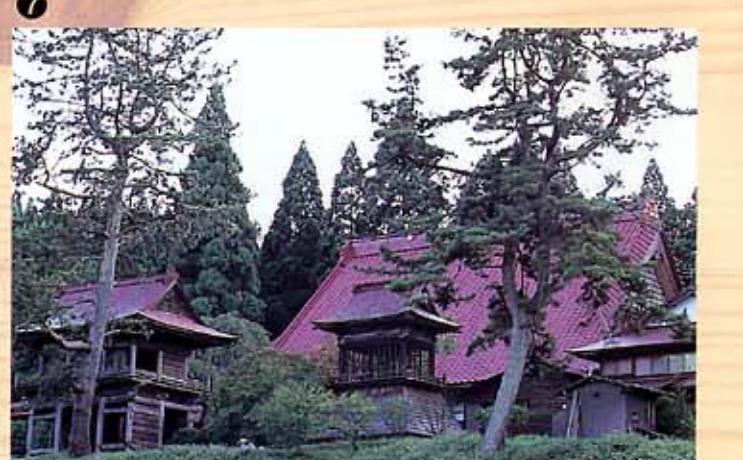
㉖



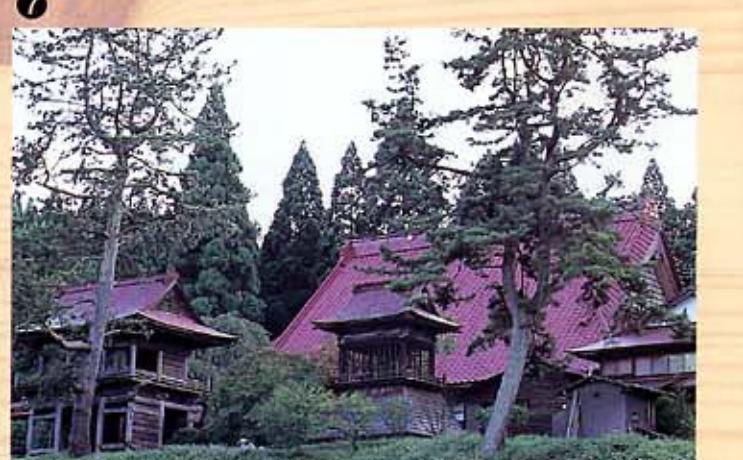
㉗



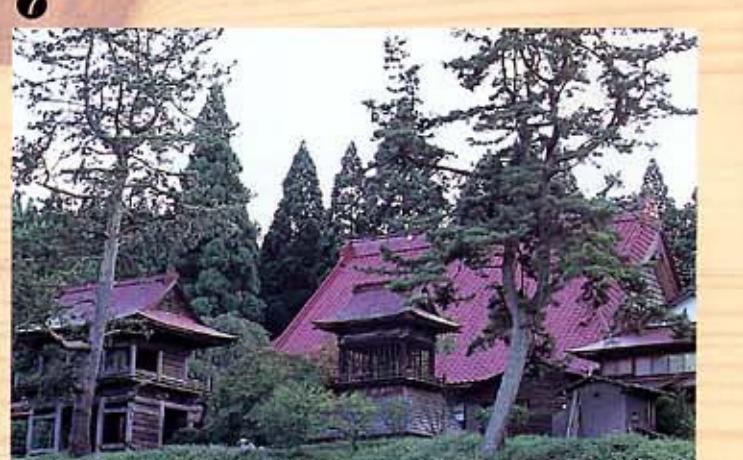
㉘



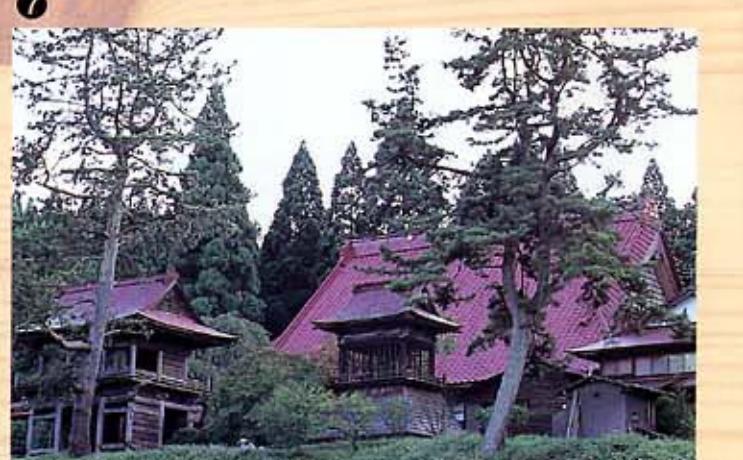
㉙



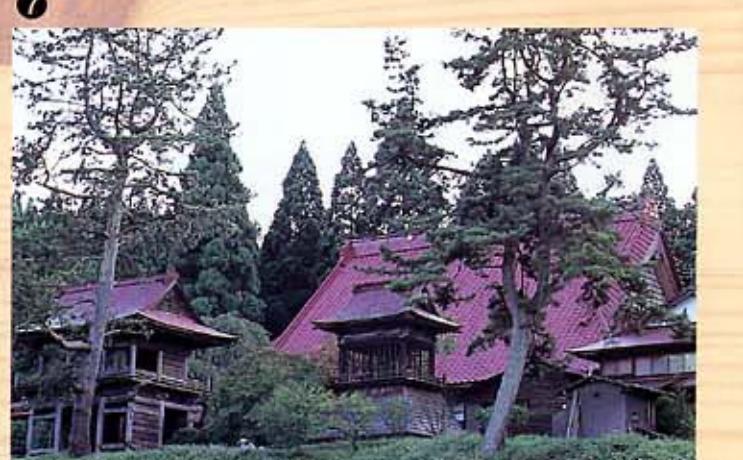
㉚



㉛



㉜



㉝

